

琉球大学学術リポジトリ




老人保健施設の超高齢入所者における低ナトリウム血症と死亡リスクの関連

メタデータ	言語: en 出版者: 公開日: 2022-08-31 キーワード (Ja): キーワード (En): Elderly, Geriatric facility, Hyponatremia, Mortalit 作成者: 名嘉, 圭代 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002019523

2020 年 12 月 16 日

(別紙様式第 7 号)

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	課程博 * 第 号 論文博	氏名	名 嘉 圭 代
論文審査委員	審査日	2020 年 12 月 14 日	
	主査教授	植 田 具 一 郎	
	副査教授	中 西 浩 一	
	副査教授	遠 里 果	
(論 文 題 目)			
Hyponatremia and mortality among very elderly residents in a geriatric health service facility (老人保健施設の超高齢入所者における低ナトリウム血症と死亡リスクの関連)			
(論文審査結果の要旨)			
上記論文に関して、研究の背景と目的、研究内容、研究結果の意義、学術水準等に関して慎重に検討し、以下の審査結果を得た。			
1. 研究の背景と目的			
背景：低ナトリウム血症は、心疾患、感染症や入院などの様々な臨床症状でしばしば認められ、軽度な低ナトリウム血症が心疾患の既往のない入院高齢者の心疾患や死亡率の増加と関連が認められているが、老人保健施設の高齢入所者の低ナトリウム血症の有病率とその臨床的意義は明らかではない。目的：老人保健施設の超高齢入所者における低ナトリウム血症と死亡率について調べることを目的とした。			
2. 研究内容			
方法：単一の老人保健施設入所者 118 人の血清ナトリウムレベルと死亡率との関連を後ろ向きに観察研究した。低ナトリウム血症を $Na < 135 \text{ mEq/L}$ と定義。単回測定 of 血液検査施行後、12 か月の観察期間の生存群と死亡群における低ナトリウム血症の差を検討し、低ナトリウム血症合併群と低ナトリウム血症非合併群の臨床的特徴を比較分析した。 Kaplan-Meier 法を用い、低ナトリウム血症合併群と非合併群の生存率および COX 比例ハザード分析を用いて死亡に関連する多変量解析を行った。結果：生存群と比較し死亡群は血清ナトリウム値・総蛋白質が低かった。低ナトリウム血症合併群は低ナトリウム血症非合併群と比較して血清クロライド、ヘモグロビン、アルブミン、総コレステロール、中性脂肪が低く、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼは軽度高値であった。心不全の既往歴、脳血管障害や高血圧、糖尿病、脂質異常症などの基礎疾患や、利尿剤など薬剤使用に差はなかった。多変量解において、低ナトリウム血症は死亡に関連する交絡因子で調整しても独立して関連していた。ハザード比 2.73, (95%CI : 1.01-5.16) $P=0.047$ 。 結論：低ナトリウム血症は高齢者施設入所者の死亡率と関連していた。軽度低ナトリウム血症であっても高齢者施設の超高齢者にとって近い将来の重要な予後因子である可能性があると考えられた。			

3. 研究結果の意義と学術的水準

本研究は、老人保健施設の超高齢入所者における低ナトリウム血症と死亡リスクの関連について示した初の学術論文である。本研究の結果により、高齢者の低ナトリウム血症の原因は様々であるが、低ナトリウム血症の症例ごとに原因を明らかにすることが低ナトリウム血症の是正、予後改善のために重要であると考えられた。

本研究結果は、腎臓病の学術雑誌として国際的に評価されている *Clinical and Experimental Nephrology* 誌にて 2018 年にすでに発表されており、国際的にも認められる学術的水準にあるものと考えられる。




以上より、本論文は医学博士の学位授与に値するものであると判断した。

- 備考
- 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書きとすること。
 - 2 要旨は 800 字～1200 字以内にまとめること。
 - 3 *印は記入しないこと。

2020 年 12 月 16 日

(別紙様式第 11 号)

学 力 確 認 結 果 の 要 旨

報 告 番 号	* 論 文 博 第	号	氏 名	名 嘉 圭 代
論 文 審 査 委 員	審 査 日	2020 年 12 月 14 日		
	主 査 教 授	木 田 真 一		
	副 査 教 授	中 西 浩 一		
	副 査 教 授	山 根 英		
(学 力 確 認 結 果 の 要 旨)				
<p>学 力 の 確 認 は、提 出 さ れ た 論 文 内 容 を 中 心 に、以 下 の 点 に つ い て 口 頭 で 行 っ た。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 提 出 論 文 の 内 容、意 義 に つ い て 十 分 に 把 握 し て い る 事 実。2. 研 究 の 目 的 と 方 法 に つ い て 熟 知 し、習 得 し て い る 事 実。3. 研 究 結 果 に つ い て 正 しく 解 析 し、理 解 し て い る 事 実。4. 関 連 す る 国 内 外 の 研 究 を 良 く 把 握 し て い る 事 実。5. 研 究 結 果 の 展 望 に 関 し て 確 かな 見 解 を 有 し て い る 事 実。 <p>以 上 の 点 に 関 し て、各 種 の 質 疑 に 対 し て の 回 答 は お お む ね 十 分 満 足 の い く も の で あ り、博 士 学 位 に ふ さ わ し い 学 力 を 備 え て い る 事 実 が 確 認 さ れ た。</p> <p>よ っ て、大 学 院 博 士 課 程 を 修 了 し た も の と 同 等 以 上 の 学 力 を 有 す る も の と し て 判 定 し た。</p>				

- 備 考 1 用 紙 の 規 格 は、A 4 と し 縦 に し て 左 横 書 と す る 事 実。
- 2 * 印 は 記 入 し な い 事 実。